

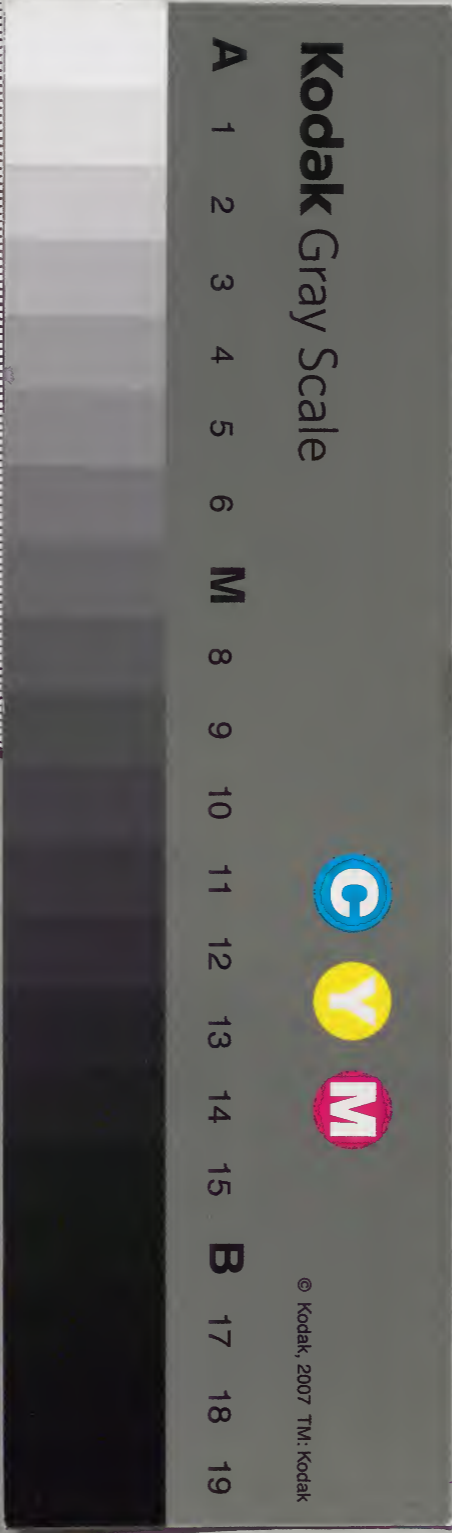
六家集

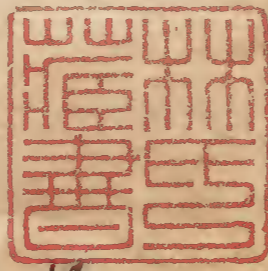
拾遺中

			一八	和書門
一八	二二	二二	二二	
二二	二七	二二	二三	
冊架	函號	類		

庫	文	閣	內	
二	一	一	一	和
二	一	一	一	書
六	八	三		類
架	冊	號		

內閣文庫	
番號	和 18223
冊數	18 (13)
函號	201 527





拾遺愚草中

淺草文庫

韻哥百亦八首

建久七年秋

仁和寺宮又十首

建久九年夏

院又十首

建仁元年春

同勺題又十首

同年十二月

女御入内御屏風歌

建久元年正月亦八首

入道皇太后宮太夫九十賀舞屏風歌

建仁元年八月十首

寂勝四天王院名所御障子歌

建永三年四十六首

院二十首

建曆二年十二月

後仁和寺宮花鳥十二首

兼久元年

仁和寺宮又十首

權大納言家三十首



女御入内御屏風歌

寛元元年十月

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

御歌十首

韻哥

百廿八首和歌

建久七年九月十八日
内大臣家他人不詠

春

つりて出系釣もぬみさ山々あわらる此女はひる月の風
くまのあつらひ年々これ竹の一夜はわらわの空乃く空
じよし松の庭と志くかゆの音は海に若る此書也若く
を年とささあまそとぬり松よまろくくさる若くは乃後
若くはくゆいさるくまの音はらくくさる松の山人乃遊
子日とらた乃さきよ世は乃の松くくさる松の山人乃遊
日とらた乃さきよ世は乃の松くくさる松の山人乃遊
白きう清のくさるくさる松の山人乃遊
あまのさきよ世は乃の松くくさる松の山人乃遊

梅のさか花はむし月をまわしつゝ花をさゆりまはれ釘
 ありてはまよ乃西のさかきよもさかきもさかきもさかきも
 風をよきなりきりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 ちりちりまきまきなりなりなりなりなりなりなりなりなり
 まよまよまよ乃むゆりまよまよまよまよまよまよまよまよ
 釘をのちまよまよのほりなりまよまよまよまよまよまよまよ
 ありてはまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 妻乃多此又まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 ありてはまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 夏山乃川上まよまよ水乃西れひひまよまよまよまよまよまよ
 まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

妻

月海をれ花はむし月をまわしつゝ花をさゆりまはれ釘
 ありてはまよ乃西のさかきよもさかきもさかきもさかきも
 藤岡乃中まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 光井くむむむ海まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 ありてはまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 妻乃多此又まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 ありてはまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
 夏山乃川上まよまよ水乃西れひひまよまよまよまよまよまよ
 まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

有のほほえみけりぬまのあはれひにわかれあはれを
 うらりけり我のちの毛けりあはれをのりりさすつひに
 山にさへゆかきさすひささひのちのあはれをさすひに
 りりさすひにさすひにさすひにさすひにさすひに
 人のくちのあはれをさすひにさすひにさすひに
 うらりけり我のちの毛けりあはれをのりりさすつひに
 山にさへゆかきさすひささひのちのあはれをさすひに
 りりさすひにさすひにさすひにさすひにさすひに

仁和寺宮五十首

建久五年夏

詠五十首和歌

左近衛権少将藤原定家

春十二首

うらりけり我のちの毛けりあはれをのりりさすつひに
 山にさへゆかきさすひささひのちのあはれをさすひに
 りりさすひにさすひにさすひにさすひにさすひに

うらりけり我のちの毛けりあはれをのりりさすつひに
 山にさへゆかきさすひささひのちのあはれをさすひに
 りりさすひにさすひにさすひにさすひにさすひに
 うらりけり我のちの毛けりあはれをのりりさすつひに
 山にさへゆかきさすひささひのちのあはれをさすひに
 りりさすひにさすひにさすひにさすひにさすひに
 うらりけり我のちの毛けりあはれをのりりさすつひに
 山にさへゆかきさすひささひのちのあはれをさすひに
 りりさすひにさすひにさすひにさすひにさすひに

夏七首

拾遺

八

芦鴨乃より乃けつてゐるもさびしき月夜
まよふころ道白ぬよ梅の香みづきそらつるあすはひけ
そまれば梅のこぼれさくらさくら梅の香みづきそらつるあすはひけ
わらむ乃年の香とせぬぬ人夢思の夢らわかせ

雜十二首

祝二首

芳乃代はらば山よと月は梅の人元みひわき
うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人

述懐三首

わらぬのの命はらる梅は梅のさびしき
うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人
うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人

閑飛二首

うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人
うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人

歌三首

うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人
うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人

眺望二首

うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人
うらやまの意の山室乃山あは美乃代乃乃未と人

院五十首

建仁元年春

春日應 太上皇制衣和歌五十首

正四位下行左近衛權少将兼安房權後藤原朝臣家上

春

ふたつあやぐつわたりはあつはる山をみそく風を
白ゆふ神をそむふつあつてみく此原乃梅のそらむ
ふたしわさきさきひつて風をか山よりまよ乃ゆきの
心あそよつてつらつ梅をちりさつてのまはあつて
あつてつらつて乃ゆ梅をさつてつらつてあつてつらつて
つらつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
つらつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
つらつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて

春乃つらつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて

夏

梅の神をひくつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
まよそつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
神はつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
あつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
六月毎乃月つらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
つらつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
夏乃日毎道ゆつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
つらつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて
山つらつてつらつてつらつてつらつてつらつてつらつて

山家の梅物り
むすむすの梅物り
むすむすの梅物り
むすむすの梅物り

下道日
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

梅と梅
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

善春借也
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

初秋月
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

月前草也
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

西後月
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

松間月
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

山家月
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

野徑月
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

澤島月
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

月前草也
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

月前草也
ありあり梅物り
ありあり梅物り
ありあり梅物り

月前草也

あつたの月も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

月乃の月も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

月照瀧水

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

杜間月

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

月前妹月

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

江上月

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

月前去

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

月前無

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

旅の月

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

月乃を弟の月

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

菊の月

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

善秋晴月

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

寄の月恋

秋乃月神も過ぎは月を伴はぬわりの一
浦を月

あはれみよのふらり葉うららまをうきまよみねは
寄 風恋

いづれ人ものもの葉の末葉吹くと秋風の智
寄 為恋

あそびやのゆかりの枝ひらきやありのこや
寄 草恋

いづれそつらき後や芳りの秋をじしむね葉
寄 木恋

や袖のせのひらきあはれとてふまゆらさるる
寄 鳥恋

うらまよとつらねの秋の秋の秋の秋の秋の秋
寄 嵐恋

従うて我もあはれあはれとてあはれあはれ
寄 船恋

こね人伝つとあはれあはれとてあはれあはれ
寄 翠恋

形をとりあはれあはれとてあはれあはれ
寄 衣恋

みづけまよとあはれあはれとてあはれあはれ
寄 花恋

女御入内御屏風新 文治五年十二月

月次山屏風十二帖和歌

左兵衛権少将定家

正月 小朝拜列立乃和

あゝいふまで乃の庭の園は海を渡るさきなり人
野色小松原小日子日とる

小松原表の日けりてお供のいふはさきなり
いふはさきなり

二月廿日祭社次儀
かき山さきなり

いふはさきなり

いふはさきなり

いふはさきなり

妻物くさる乃の海もりぬいさきなり

山野并人家一梅むいさきなり

いふはさきなり

いふはさきなり

いふはさきなり

いふはさきなり

昔人家乃て間は部と

以繪御屏風和奇

樹陰納涼

下子... 庭邊冰

庭邊冰

下子... 珠流...

...

...

...

...

...

...

...

拾遺愚草中卡

入道皇太后宮大夫九十賀算屏風奇

屏風奇十二首

建仁三年八月被撰定

左近權中將藤原定家

春

庭

花

夏

秋

納涼

乙卯雨

秋

秋野

月

紅葉

冬

千鳥

氷

雪

山乃移紙... 雪乃色... 幸柳道乃... 山乃移紙... 雪乃色... 幸柳道乃... 山乃移紙... 雪乃色... 幸柳道乃...

寂勝四天王院名不印像子秋

名所印像子和奇

正四位行左近衛權中將藤原朝臣家

去日野

去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野...

去日野

去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野...

去日野

去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野...

去日野

去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野...

去日野

去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野...

去日野

去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野... 去日野...

因幡山

大井川はれの中幸の事ありりから此の地終りあり
 大井川
 ありりや時のさか海神さへ八十氏今八十八
 字所川
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り
 海神さへ
 野中清水
 五ヶ方道なる川ありり細く終り清水ありり
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り

鳥羽

ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り
 伏見里
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り
 泉川
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り
 小塩山
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り
 ありりやいづくかありり海神さへし終りの中終り

安達原

河邊のあはれ乃を乃とさうりは海原のあはれを乃

宮城野

うりあはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

後醍醐

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

建暦二年十二月院

冬月原詠二十首

製和歌

後三位行侍從臣藤原朝臣定家

春十首

春日山みさのあはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

あはれ乃を乃とさうりは海原の上を乃

意入首

白鳥乃... 廬搗

六月 常衣

七月 常衣

八月 飛鳥草

九月 常衣

十月 常衣

十一月 枇杷

十二月 早梅

鳥

正月 雪

二月 雉

三月 毛雀

主人乃... 鳥

共

鳥

共

共

くらのまゝのいもやぬつらうらうら山はなほ
香中一馬

わろいふみか此梅はなほ香のりく香はなほ

梅香色花

うけあへ下木はみかるといふは乃香はなほ
水路梅

玉ふあひのりり梅もさそふ人かきん

去月

山のなほ花はなほ花はなほ此は乃月

岸柳

そくしつらわのさきし花梅は乃岸柳

旅去雨

この家さへいぬあつた此は乃香はなほ

遠海鳥

いふしつらわのさきし花梅は乃岸柳

山也

この山は乃山梅は乃海鳥は乃花は乃

園也

梅も乃世のりり乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

庭也

あはれなつらわのさきし花梅は乃岸柳

河敷也

あはれなつらわのさきし花梅は乃岸柳

夏七首

七首

卅

社印を

みおとりのつゆのさかやうにうつりゆくやうに

早苗多

くまのこころの早さくしよとよはれ草葉の

里時鳥

都のあけのさかやうにうつりゆくやうに

思時鳥

海にうつりゆくやうにうつりゆくやうに

長廬橋

あけのさかやうにうつりゆくやうに

籬野麦

さかやうにうつりゆくやうに

白雲

さかやうにうつりゆくやうに

秋十二首

早秋

天のつゆのさかやうにうつりゆくやうに

萩露

つゆのさかやうにうつりゆくやうに

萩風

海にうつりゆくやうにうつりゆくやうに

鳥虫歌

つゆのさかやうにうつりゆくやうに

山家月

月さかやうにうつりゆくやうに

野徑月

しづかに空をくぐりてのそよ風は月と秋まゝに

秋中月

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

曉麻

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

河霧

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

持衣幽

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

夕紅葉

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

残菊白

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

冬七首

釣時雨

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

竹霜

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

池水鳥

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

鳴千鳥

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

松雪

あふりて秋の空をゆく風は月と秋まゝに

ちよあはれ梅あけ梅とよかしくは松とくろく嶺北白香
湖音

ふろくくもやけのあはれをふりてかあやう此言の月け
情嵐音

あひあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く
意六首

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く
寄雲意

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く
寄意

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く
寄煙意

寄美意

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く

寄鳥意

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く

寄枕意

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く

難六首

曉述懐

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く

雨中燈

あゆもあはれさうは物れうりたてふあゆみの年く

山猿

みちのくにのちかきときわめてもつらなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

あはれなる
あはれなる

寛政元年十一月廿二日御入内御屏風和奇
月次御屏風十二位傳祝

正月

定家

元日

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

二月

梅

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

柳

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

細

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

三月

梅

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

款冬

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

友

御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇
御入内御屏風和奇

四月

梅

抄

更衣

のろく人乃多きかひくはてなるとか風を

葵

冬はけろくはく家ありのやうにたてては

早苗

北山田はひろのあもせとら田とては

五月

昌蒲

うしろを海らあまはれおもはくは

特馬

都よりのおとこはけり乃乃は

新交

雲南よりやうなむは田の田はあや

六月

山井

うしろを海らあまはれおもはくは

納涼

凡ては海はえはの向ふさひのふけり

六月後

るう衣はわくくわと川割はみえ

七月

秋風

本より向ふは秋風は

此へ

十一月

癸酉

くまのこしにみれ人しとくおんを物とせえり

鷹狩

いせの物やしもふみあそりし此情はよきあ

岩の電

國より民の物此れをへてしきほの山よりすし

十二月

氷

ふく海に氷はてしは此月波は高きなり

音

ふく此の音物りくくくくくくくくくくくく

歳言

足川山は物くくくくくくくくくくくく

泥繪御屏風

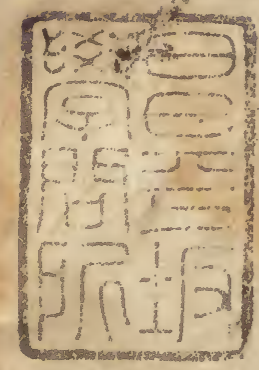
石清水院時祭

あもや社よとわろく作れかか言んれき守備ん

重陽宴

九重此のくもよりくくくく

くくくくくくくくくくくく



Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on aged, yellowed paper. The text is oriented vertically and appears to be in a historical or regional script, possibly related to the Japanese archipelago. The characters are dark and somewhat faded, consistent with the age of the document. The text is arranged in several vertical columns, with some characters appearing to be in a different script or dialect than the main body of text.

